

項目	確認事項	届出内容
<b>基本情報</b>	大学等名1(代表大学等)	共愛学園前橋国際大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウアイガクエンマエバシコクサイダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F110310101844
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	群馬県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	長期インターンシップ
	学部・研究科等名	国際社会学部
	担当教職員名・役職	客員教授 清水 弘己、就職支援グループ長 大谷 翔
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	3
	受入企業等名	前橋市、エアムーブ住宅(株)、NPO法人教育支援協会北関東
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
<b>要素①</b>	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	4か月間に及ぶ実習先での実務研修を通じて、ビジネスマインド、ビジネススキル、ビジネスマナーを修得する。実習先から提示される企業課題や地域課題への取り組みを通じて単なる就業体験を超え、ビジネスパーソンのマインドを学修する。
<b>要素②</b>	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年 大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 その他
	2-5.上記回答内容に関する詳細	12単位

要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
		5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	上記1～4について、互いの相互理解が深まるよう、グループワークを用いて学修を展開している。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
4.その他		
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	報告書の作成を行い、学びが一年度で完結せず、次の学年にも共有され、継続的な学びのサイクルを作っている。	
3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している	
	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している	
	3.その他	
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、メンターや受入担当者との面談を通じて、第三者的視点で学生の状況を把握している。	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	実習開始1週間前から行い、5日間かけて、ビジネスマナー、お、名刺の渡し方など社会人の基礎を学修します。また、研修先についてや、自己分析など、研修にあたり必要になる自他に関する調査を行い、プレゼンテーションなどを通じて理解を深めます。	

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習終了後に、5日間かけて、グループワークを行い、実習で得られたことや気づき、生活習慣の変化や、今後の大学生活に活かしたいことなどディスカッションします。また、実習生の前で発表を行うことで、他の学生からの視点などを幅広く自分に取り入れ、他学生の目を通じて、実習での学びをより広げます。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	4カ月間という長期にわたる実習のため、実習先との信頼関係、学生の心身の変化などに注意を払います。1カ月に1度は実習先へ訪問を行います。また、実習開始から終了までの4カ月間の間に3回、中間報告会を大学で開催し、実習で得られたことの相互共有と理解を深めます。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	週3日半の勤務時間を確保し、実習先による実務研修を行っている。後期期間中（半期）実習先に上記時間毎日通い、当該年度に履修しなければならないような必修科目等については、大学に通学し、学修している。
5-3.上記回答内容に関する詳細	サービスラーニングタームを導入し、4カ月間の長期にわたるインターンシップへの参加と、必修科目の履修による4年間での卒業を実現可能にしている。週3日半というスパンで勤務することで、振り返りの時間にもなり、学生にとって理解を深める時間ともなっている。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している

		6.企業と協働して、P D C Aを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習開始前には前年度の振り返りを含め、受入予定先と大学間にて打合せを行い、当該年度の実習の内容や方向性について意見交換を行っている。また実習後の最終報告会には全ての実習先が参加し、それぞれから実習生に向けた講評をもらうだけでなく、報告書に添付する実習に関する評価やコメントも頂く。社会人基礎力をベースに実習生の伸長も確認しており、定量的な指標で実習先と成果を確認している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://sy.kyoai.ac.jp/2021/630100.pdf">http://sy.kyoai.ac.jp/2021/630100.pdf</a>
問い合わせ先	大学等名	共愛学園前橋国際大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	キャリアセンター・就職支援グループ長
	担当者氏名	大谷 翔
	電話番号	027-266-9035
	メールアドレス	<a href="mailto:otani-s@c.kyoai.ac.jp">otani-s@c.kyoai.ac.jp</a>